

クラス担任のための Career Guidance

RECRUIT

キャリアガイダンス 特別編集

2012 >> VOL.10

大学合格や内定獲得で進路が決まったあとにこそ可能な進路指導もある。生徒に現在必要なことを自覚させ、将来につなげるための指導法を考える。

「ここからが最後の仕上げ！」 進路決定後の進路指導

進路決定後のケアがその後の成長を促す

推薦入試やAO入試で早い時期に進路が決まる生徒が増えているなか、進路決定後の指導に悩める教員も多し。小誌編集協力委員へのアンケートでは「進路が決まったとたん、生徒の勉強に対する意欲がなくなる」「決定後に不安になり、「これでいいのか」と悩み出す生徒がいる」などの声が寄せられた(左コラム)。

進路決定後にどのような指導があれば、より生徒の助けとなるのか。コミュニケーションデザインを研究し、小・中・高校でキャリア教育についての講演を行っている京都大学総合博物館准教授の塩瀬隆之先生に聞いた。

塩瀬先生が第一に勧めるのが、自分の進路について説明する機会をもたせること。推薦入試でも一般入試でも、また就職でも、進路が決まった生徒に「どうしてその進路を選んだのか」「そこで何をしたいのか」を改めて語らせるのだ。その時、素直な気持ちを話してもらいたいのだが、

できれば少し背伸びした「大義名分」のほうがいいという。

「実際に進路を決めた理由は何でもかまいません。親が言ったから」「テレビで見かけて」というようなきっかけもあるでしょう。けれど、決めた瞬間からその進路は自分のもの。自分の言葉で社会とつながっていくのだ。「この学部で何を学んで、こんな社会貢献につなげたい」とか。最初は言葉がなじんできていなくても、言葉にして人に説明し、それを繰り返すことで、自覚が芽生え、「真(まこと)」になっていきます。進路には正解も不正解もありませんから、そうやって、自分が選んだ理由を自分のなかで正当化することが大切です」

これから進路を考える後輩を相手に語らせる

自分がその進路を選んだことに自信をもち、これから何をしたいかが見えてくれば、進路決定後の時間を無為に過ごすことも減るかもしれない。語る場としては、教員が聞くのももち

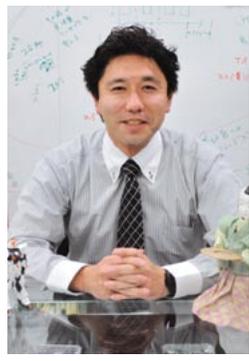
ろいいのだが、進路が決まった生徒を集めてグループワークの形式でお互いに話し合せてもいい。あるいはこれから進路を考える高校1年生など、後輩に向かって話させる。同級生に話すよりも言葉を選ぶので、より効果がありそうだ。合格体験記を書かせる場合にも、体験だけでなく、進路後に何をしたいのか、何のために進むのかを書かせたい。

アンケートへの回答に以下のようなものもあった。「入学が決まった生徒に、大学案内の該当ページを開かせて、その学科の魅力を語らせている。上気した顔で、延々話をする生徒も少なくない。大学をブランドイメージや偏差値などで選んだわけではなく、「この学問ができるからこそ、この大学を選んだ」と再自覚させ、大学入学後の五月病を防ぎたい」

正解のない問題を話し合い未来への自信を育てる

塩瀬先生が「自分の選択を人に語ることに」に着目したのは、学生の変化がきっかけ

けだったという。毎年就職が決まった学生に、なぜその会社にしたのか聞いてきて、ここ数年しっかり説明できない学生が増えた。しかし、日本の人口が減少に転じた。先人の模倣ではなく新しいやり方の創出が必要なこの時代だからこそなおさら、未来の自分の進む道に自信をもてるのが大切だ。



京都大学総合博物館 准教授 塩瀬隆之先生
慶応義塾大学SFC研究所 上席所員(訪問)、伊賀流忍者博物館顧問、京都市立堀川高等学校スーパーサイエンスハイスクール 学術顧問を併任。京都大学ほかで、技術コミュニケーション入門、コミュニケーションデザイン、創造的ディスカッションなどについて講義している。

「正解がないからこそ、目の前にいる相手の価値観と自分の経験のすべてを照らし合わせながら、お互いが納得できる正解を共同でつくっていくなければなりません。正解のない問題に取り組むことでクリエイティブ・コンフィデンスを育て、自信をもって前に進めるようになってもらいたいですね」

そこで塩瀬先生が、もう一つ進路指導の現場に取り入れてほしいと語るのが「クリエイティブ・コンフィデンス」を育てるという考えである。「自信にはうあります。うは、それまでの経験に基づいて、過去の自分に対する自信。もう一つは、未知のものに向き合った時の、未来の自分に対する自信で、これをクリエイティブ・コンフィデンスと呼んでいます」



塩瀬先生が、児童・生徒に正解のない問題を考えさせるために製作した「宇宙箱舟」。「宇宙に12組の生物だけ連れていこうとしたらどの生物を選ぶ?」「元気なゾウと病気のゾウのどちらを選ぶ?」などと問いかけながら、グループワークに取り組みさせる。

“進路決定後の課題”



- 文系クラスでは12月に入るとクラスの8割方、進路が決定してしまう。①学習のモチベーションの維持、②小論文・志望理由書・面接の対策を優先したことによる基礎学力の2つが課題。(東京都)
- 自分で進路決定ができない生徒が多いため、決まっても悩むケースあり。(福島県)
- 進路は決定したが、大学卒業後何になりたいのかが明確でないため、どんな大学生活を送りたいのかがイメージできず、今何をすべきか考えられない。(静岡県)
- 受験が終わったら、読書したい、録りためていたDVDを見たいなどと言っていた生徒が、いざ合格が決まると気が抜けてしまい、テレビのワイドショーを何気なく見て無為に時間を過ごしてしまう。(滋賀県)
- 経済的な課題。進学費用が工面できず、合格辞退をせざるを得ないケースが毎年、複数ある。(三重県)
- 授業が最後まで入試対策であるため、進路が決まってしまうと学校に来る意味すら感じられない生徒がかなりいる。また教員もそれを仕方ないと感じている。(大阪府)
- 教師の側が、大学受験という外発的動機づけを中心に生徒を教育してきたのだから、そのプレッシャーがなくなったとたん、生徒たちの意欲がなくなるのは仕方がない。最近さらに問題だと思われるのは、そのプレッシャー自体が「効かなくな」ってきていること。(石川県)

“進路決定後の指導例”

- 大学等に進学した卒業生をよび、大学で要求される「学びの姿勢」について講演してもらう。(和歌山県)
- 進学者には、学部・学科に応じた基礎準備教育。就職者には、各企業に応じた業界教育。(大阪府)
- 受験組と同じように補習を受け、センター試験で7割以上とるよう指導していた。(富山県)
- これからやりたいのは、①自分の大学生活イメージに合いそうな人に個別に大学生活の助言を受け、その後大学生活の決意や目標を書き、発表。②中学生に対しての進路講話を全員にさせる(中学生にもプラスになり、高校生活のふりかえりや、大学での目標を語ることによるモチベーションアップなどの効果が見込める)。(京都府)
- ①レポートの書き方、プレゼンテーション、グループディスカッションなどの特別授業。また高3「小論文講座」の後半は、進学後を意識したプログラムを入れている。受験後の生徒も興味をもって参加してくれる。②養護教諭・学校薬剤師・管理栄養士・スクールカウンセラーによる、心身の健康に関する特別授業。(東京都)
- 就職内定者に対し、改めてキャリアデザインを基にした目標設定をさせ、責任感と自覚ある社会人としての心がまえを養成する。ミスマッチとリアリティショックに対する準備。(三重県)

すべての機能を無料で!!

大学受験に効くサイト、リクルートから新登場! 受験サプ

大学受験をひかえている高校生の皆さまに、使っていただきたい便利な機能をそろえました。無料会員登録するだけですべての機能をお使いいただけます。



- 受験生にオススメの3つのポイント
- 偏差値情報も含む、全国の国公立・私大の情報が探せる!
 - センター試験の過去問や模試が無料で利用できる!
 - 入試日程情報と入試プランナーでスケジュールを管理できる
- 受験サプ 検索
- パソコンでチェック! <http://jyukenapuri.jp/>